

7	明治三十九年懷中日記 (1月1日～12月31日)	明治39 (1906)年	山高幾之丞	1冊	山高関係 1-8
山高幾之丞による自筆の日記で、署名もあります。当時の市販の日記帳・手帳の様子もわかります。					

当文書群の特色の1つは、日記が11冊あることです(うち1冊は、父親の幾之丞をまねた子どもによるものかもしれません)。年代は1冊が明治10年代で、ほかは明治30年代のものです。

内容は仕事に関するものが多く、学校行事や群馬県内の学校への視察などのほか、教育現場で役立つような格言や当時得た知見なども書き留められています。1冊を除き、市販の小型の日記帳を用い、ペンや筆で書かれています。

日記帳自体で興味深いのは、日記を書くページの余白に生活上の教訓や詩歌が印刷されていたり、様々な情報が付録として掲載されていることです。日本の日記帳・手帳の文化にもふれることができる資料です。

